令和8年8月20日（木）
大崎タイムス掲載

ふるさと企業探訪

# 現場まとめる施工管理

## 協力会社と連携し完工へ

### 丸か建設

### 「定年まで働く会社に」

丸か建設（加美町）

害復旧、東松島市大曲の主な業務は「施工管理」。加美町新庁舎建設や漆沢ダムのり面災小改築をはじめ、国や県、市町村が発注する大規模建築、土木工事を主に請け負っている。各工種を専門とするさまざまな協力会社と連携しながら、工事全体の安全と工程、品質、原価を管理し、完工へと導いている。

加美町新庁舎現場を視察する佐々木社長

小野田で旅館、金物店、材木店を営んでいた「小野田丸か」から1924（大正13）年に独立したのが始まり。100周年に当たる2024年に佐々木一暢（かつのぶ）さんが32歳の若さで5代目社長に就いた。

佐々木社長は大学を卒業後、鹿島建設に入社し、女川で東日本大震災の復旧工事に携わった。19年1月に丸か建設に入って常務になると、公平・公正で褒められることを目指した人事考課を導入。年功序列ではなく能力や実績に応じた賃金制度に改めたほか、ワーク・ライフ・バランスを推進し、労働時間削減と完全週休2日制も実現した。

加美町赤塚の本社

こうした取り組みが認められ、社員の健康管理に積極的な「健康経営優良法人」、子育てサポート企業の最上位ランク「プラチナくるみん」、若者の採用や育成に積極的な「ユースエール」、県の「女性のチカラを活かす企業」にいずれも認定されている。

従業員は81人。多くが「施工管理技士」として、それぞれの担当現場で立ち入り禁止区域や重機の配置などを協力会社の作業員に説明したり、測量や写真撮影、清掃をしたりして現場の安全や工事の進捗（しんちょく）状況を確かめながら完工へと導いている。入社後に資格の取得が必要な上、高いコミュニケーション力が求められる。

佐々木社長は「全社員が、定年まで働きたい、働いてきて良かったと思ってもらえる会社にしたい」と意気込んでいる。

## 新卒採用に積極的

### 35歳の総務部長 川上卓也（たくや）さん

仙台市の金融機関に10年務めた後、3年前に入社。主に人事を担当し、特に新卒採用の拡大に取り組んできた。これまでは建築や土木を学んだ高校生が中心だったが、大学生や専門学校生、普通科の高校生にも間口を広げた。今春には新卒5人（うち大卒1人）を採用しながら、3年以内の中途退社は1人もいないという。

さらに休日の増加にも取り組んだ。3年前は4週6休で103日だった年間休日を110日、124日、126日と毎年増やし、有給休暇の取得も促進した。並行して労働時間短縮と時間外労働のルール徹底も研修などで呼び掛けた。新入社員には少し上の年代が指導係を務める「メンター制度」も導入した。

人事ばかりでなく、自ら土木施工管理技士補1級のほか、建設会社の経営審査で公認会計士や税理士と同等の評価となる「建設業経理士1級」もことし3月に取得した。5月には35歳の若さで総務部長に抜擢（ばってき）されている。

川上部長は「採用だけでなく、佐々木社長のビジョンや方向性を実行できるように組織づくりをサポートしていきたい」と意気込む。

高校生に会社を紹介する川上部長